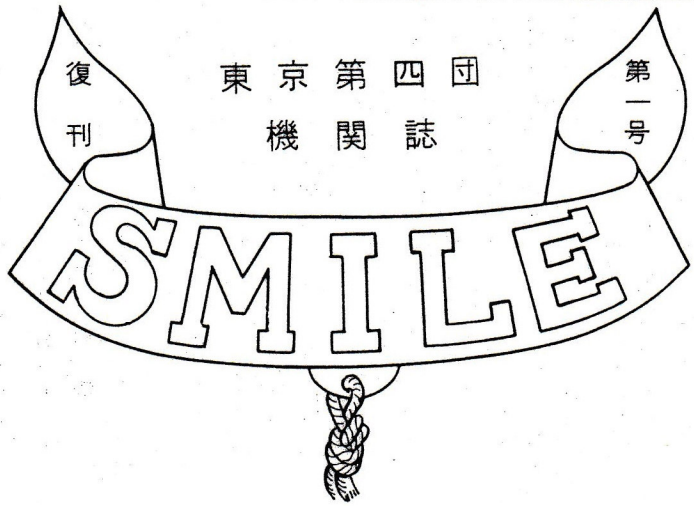

やあ、皆さん、こんにちわ
私の名前は〝スマイル〟

皆さんの中には私の事を知らない人も多いと思う。私は今から二十七年前の一九四九年九月に生まれた。その時の私はガリ板刷だった。まだ出来たての東京第四隊（その頃はボーイ隊しかなかったのだ）のスカウトたちは、自分たちで原稿を書き、自分たちの手で私を印刷してくれた。スカウトたちは、毎月私を発行するために大変な苦労をしたものだったよ。私は、スカウトたちの意見の交換場所になったり行事の報告をしたり、時には野営の仕方の教科書になったりもした。あの頃の私はほんとうによく働いたものだった。

私も年を取り四団も年を取った。スカウトがふえ、隊ごとに別々な活動をしはじめると、私は月刊から季刊そして年刊へと回数が減らされていった。四団は私が働くにはあまりに大きくなりすぎたのかもしれない。なにしろ発隊当時はスカウトが十数名しかいなかったんだからね。その頃の写真は今もシニアの部屋に飾ってあるはずだ。その中には、現在団委員長の小崎さん、コーバーの隊長の今田さん、それに私の最初の編集長の稲瀬さんもいるはずだ。彼は今葛飾区で洋菓子屋さんをしているそうで、そのことは、同じ写真の中にいる遠山さんが訪問記を書いて下さっている。

そうそう大切な事を忘れていたっけ。

こうして今私が久しぶりに登場したわけを教えよう。来年三十周年を迎える四団のスカウト諸君。君たちは何か忘れていないだろうか。スカウト活動というのはスカウトが自分自身ですることなんだよ。リーダーがいるからって頼ってばかりいてはいけない。そう言ったからってそんな悲しそうな顔をするなよ。君たちの先輩は何もないところから始めたんだ。そして私に〝スマイル〟という名前をつけてくれた。私はこの名前がとても好きだ。そしてどうか皆さんも、この〝スマイル〟を忘れずにいてほしいのだ。どんなにつらい時にも〝スマイル〟をもって進もうじゃないか。

〝いつも元気！〟

『スマイル初代編集長 稲瀬さんを尋ねて』

遠山兼宏

澄んだ秋空に陽差しも暖い十一月三日、上野の山下から丁度スカウトがハイキングに行く時のように心が弾み、押え難い興奮のようなものを感じながら電車に乗りました。行先は〝お花茶屋〟。初めて降りる駅です。予め地図で見当をつけていたので改札口を出ると足は自然と右側の階段を降りて行きました。駅を出て右へ戻るように真直な道を今迄に何回も来たような自信に満ちた足取りで行くのが何とも心地よく、しばらくすると信号があり左側に交番、右側に〝ありました!!〟看板に〝マルセイ洋菓子店〟とハッキリ見えたのです。

坊主頭で学生服の上にネッカチーフをした小柄のツバメ班々長と楽しそうに話が弾んでいます。二十数年前の出来事が次から次へと。アッと言う間の数時間。外は既に真暗になっていました。帰りの駅への道迄も話が尽きず名残りを惜しみつつ改札口で別れ、電車を待つ間私の心の中が〝何時もスカウト〟という言葉が大きく一杯に響き全身を打ちました。スマイル復刊の話を聞き初代編集長稲葉東洋志さんを十数年ぶりで尋ねた一日でした。

『スマイル復刊に寄せて』

矢沢宏子

〝スマイル〟辞典で引くと〝ほほえみ〟とあります。何故この機関誌にその名がつけられたか存じませんが〝ほほえみ〟がスカウトにとって、いや、人間にとって最も大切な事の一ッであるということからでしょうか!!

昭和二十四年九月四日第一号が発刊される。

先日機会あって、十数年前のスマイルを手にしたところ前記の様に書かれていました。すでに二十七年の歳月が流れ、その間、先輩諸氏の御指導の下に数多くのスカウトが生れ育ち、日本で数少ないチャーチスカウトとして各方面で活躍されているO・Bの努力の賜物でしょう。同じ霊南坂でG・Sの教えを受けてすでに二十年近く経ち、子供が同じ道を歩みつつあるのを見るにつけて、〝スカウトの道を選びて生涯の指針定めり〟という歌の通り死に至らしめるまでスカウトでありたいと自分に思い、そして子供に願いつつの今日この頃です。

B・Sの皆様〝ほほえみ〟を忘れずに。

弥栄

『三十周年』

池田香代子

正しく言うと今から二十九年と八ヵ月程前のことです。私達が毎週ミーティングをしているこの霊南坂教会で同じように私達の大先輩はBS、GSの活動を始めていました。ひとくちに三十年と言ってもその長さが本当にわかるのは三十年以上生きている人だけかもしれません。けれどこの三十年はひとりの人間の三十年ではなく、カブからローバーへ、ブラウニーからレンジャーへ育った人達、そしてそのスカウト達のリーダーが順番に、次から次へとくり返し続けて来た大勢の人による三十年なのです。四団での二代目もたくさん育っていますしまたその後の三代目、四代目にも多くの期待がかけられています。

来年迎える三十周年ではこの〝三十〟という重みをかみしめた上で、これからの未来の四団についても考えて頂きたいと思います。そのためにも、対外活動やミーティングを考えるのと同様にスカウトひとりひとりの、四団の一員であるという気持を大切にしたいと思います。

『三十回目の誕生日』

渡辺　博

私達の団が発足したのは、昭和二十二年の二月二十二日です。この日は、右から読んでも左から読んでも同じだから、大変覚え易いんです。そして、いよいよ三十回目の誕生日を来年に迎える事になりました。

この月日の流れは、ちょうど川の流れです。最初ちょろちょろの小川も、岩を抜け谷を下り野をよぎる間に、水量を増し、ゆったりとした大河になりました。川は、豊かな水と肥沃な土をもたらしました。しかし、いつも平穏無事に流れて来たわけではありません。問題が起これば、みんなで解決してきました。みんなが協力し合って来ました。私達のいる四団の流れを作ったのは、先輩であり、教会の方々であり、そして今いる人達なのです。私達を取り巻く問題はたくさんあります。しかし、それらに背を向けず、はっきりと自覚し、正面から取り組んで解決しなければいけません。この気持を持つことも、三十周年記念行事と言えるでしょう。

筆者紹介

○遠山兼宏ー　ミスター・スマイルの紹介にもあるように、四団初代スカウトのひとり。現在は二児のよき父上である。

○矢沢宏子ー　旧姓内山さん。ガールスカウトのOG。現在は二代目ガールスカウトをもつはりきりママさんである。

○池田香代子ー　現在ブラウニーリーダー。母上からの二代目スカウトである。

○渡辺　博ー　現在シニア隊々長。他団で活躍中の兄上誠さん共々生粋の四団スカウトである。

行事予定

○十二月十八日（土）三時～四時半
〃クリスマス礼拝〃　於　霊南坂教会礼拝堂

○昭和五十二年一月四日（火）～六日（木）
いずれも午前八時～十時。
GS主催〃早朝スケート大会〃　於　代々木スケートセンター。

○一月八日（土）
〃　もちつき　〃

○二月十八日（金）
〃チャリティー映画会〃　於　麻布公会堂

○四月二十九日（金）・三十日（土）
三十周年記念式典及び記念行事。

お知らせ

○三十周年記念ワッペンを製作中です。数に限りがありますので電話予約を受付ます。（五八三）六四五一　渡辺　博

○三十周年統一テーマ決定。
〃共に語り、共に歩もう〃
シンボルカラーは〃黄色〃です。

○GS主催〃早朝スケート大会〃に参加しましょう。参加費は大人三百五十円、小人二百五十円（靴使用料百五十円）。

○〃チャリティー映画会〃においで下さい。スカウトの映画ですから御子様連れで。

○三十周年記念行事として野球大会その他、また記念事業としてレコード制作を予定しています。

OB・OGの方々へお願い

近況をお知らせ下さい。（日下部まで）

1976 551

各隊報告（その一）

○カブ隊

カブ隊は現在隊員約三十名。リーダーをつとめているのは、池沢一之隊長、杉田憲彦、高橋徹次各副長、そして龍茂久、小宮忠紀、朱鴻梁、小沢宏亘各副長補と久保田美子デンマザーです。来年度からはスカウトの父母が数名、リーダーやデンマザーとして活動に参加する予定です。また来年度新入隊員のための面接が先日教会で行なわれ、教会周辺地域に住む二十一名の子供達の入隊が内定しました。新入スカウトたちは一月から仮入隊します。

○ボーイ隊

ボーイ隊は現在小学校六年から中学三年までのスカウト二十名が四つの班を編成して活動しています。リーダーには大内丘隊長をはじめ米村輝臣副長、龍忍、安藤昭良各副長補がいます。現在のところ、小六や中三のスカウトに数名の休隊者がいますが来年三月の春休みには、千葉方面で約二十名規模のサイクリングキャンプを初めて行なうことを計画しています。

（文責 ― 原　陽　一）

GS近況報告

現在ガールスカウトは、スカウト百五名正リーダー十七名団委員十五名で活動しております。毎月第二土曜には六時から八時まで、府上先生を囲んで団委員会を行なっております。また去る十一月十三日にはBSと合同でリーダー研修会をもち、三十周年に向けて意識を高めております。

昭和五十一年十二月一日発行
発行人　ボーイスカウト東京第四団
編集人　港区南青山七―十一―五
日下部　英　一